

基本理念

草加市立病院は、市民のいのちと健康を守り、地域医療の中核を担うことを使命とします。

草加市立病院

— 創刊号 —
平成19年2月20日発行
発行 草加市立病院
編集 経営管理課
〒340-8560 草加市草加二丁目21番1号
☎ 048(946)2200(代)
ホームページ <http://www.soka-city-hospital.jp/>

特別対談

信頼される医療をめざして

- ◎東京医科歯科大学医学部附属病院長 坂本 徹
- ◎草加市立病院開設者・草加市長 木下 博信
- ◎草加市病院事業管理者（兼）病院長 高元 俊彦



（写真）左から高元病院長、坂本病院長、木下市長

坂本 徹

昭和46年 東京医科歯科大学医学部卒
東京医科歯科大学第1外科入局、その後胸部外科、米国セントルイス大学・スタンフォード大学留学を経て、大学院・胸部臓器置換学分野・教授、現在、医学部附属病院長

高元 俊彦

昭和49年 鹿児島大学医学部卒
東京医科歯科大学第2内科入局、その後スタンフォード大学メディカルセンター循環器内科（文部省在外研究員）、佐々木研究所附属杏雲堂病院、長野厚生連北信総病院副院長をへて現職



患者さんや家族の皆さんが心和むようなコンサート等も定期的に開催しています。昨年8月の「土曜の午後のコンサート」から。

市民の大きな期待を担って、新しい市立病院が平成16年7月に開院しました。新病院では病床数を以前の209床から大幅に増やして366床とし、さらに最先端の医療設備を整えるなど一層の充実を図る中で、これまで市民の皆さんに質の高い安全な医療の提供に努めてきました。しかし、一方では産科の休止状態が続いていることや、その他の診療科でも診療体制の不十分さから決して満足はいく状況とはいえません。その大きな要因には全国的な医師不足、とくに病院に勤務する医師の不足があげられます。実際に地方の病院だけでなく、大学病院からも医師がいなくなり大学からの派遣がでなくなっている現状が連日のようにメディアを通して報道されています。

このような状況の中、これからの草加市立病院をより良い病院にしていくことをテーマに、病院開設者の木下博信市長、病院事業管理者の高元俊彦病院長、当院に多数の医師を派遣していただいている東京医科歯科大学医学部附属病院の坂本徹病院長に会談していただきました。

現在、47名の常勤医師で診療を行っています。それでもこの規模の病院を運営するには小さな医師集団といえます。病院は24時間、365日の受け入れを要求されているわけですが、医師をはじめスタッフは疲労困憊しているというのが現状です。

木下 市立病院は計画の段階から単に病床を増やすというのが目的ではなく、地域に必要な高度医療を確保するという観点から二次医療機関（※1）として設置しました。ですから、地元から支援する病院というの

が本来の考えでした。しかし、市民の皆さんの意識の中には受診しやすい病院として受け止められ患者さんが殺到するというものになり、病院の医師も疲れるし、病診連携にもジレンマが生じていると感じています。

坂本 草加の病院に限りませんが、勤務医が疲労困憊している様子は大学病院でも発生しています。その極端な例が草加の産婦人科だったのかもしれない。大学から派遣された勤務医が疲弊して医局を離れていく傾向は最近一層強まっています。市民の方が病院に大きな期待を抱いておられるも、病院の本来の役割や現状がきちんと理解されていないのかもしれない。それが、市民にとって期待はずれということになるのでしょうか。

常勤医は47人、
外来は一日800人

高元 18診療科で常勤医は47人、一日当たり外来患者数は800人、入院患者は220から240人で推移しています。外来部門ではとくに小児科など時間外診療の比率も高く、また救急車の受け入れ状況は年間4200件ほどとなっています。確かに病床利用率は現在60%を越す程度と低い数字に留まっていますが、我々

市立病院の現状は

医療スタッフは 疲労困憊

―新市立病院が開院して2年半、医師不足の影響等により病院運営に大変ご苦労されていると伺っています。まず高元病院長から市立病院の現状についてお話しただけませんか。

高元 私が病院事業管理者として着任したのは一昨年の10月ですが、当時から産婦人科の休診やその他の診療科を含めて大きな困難が生じており大変な時期でした。外から一見すると大変立派な病院だし何でも出ると思っていました。が、実際には殆どの診療科で余裕を持った医師や医療スタッフの配置ができず、思うような運営はできない状況でした。

現在、47名の常勤医師で診療を行っています。それでもこの規模の病院を運営するには小さな医師集団といえます。病院は24時間、365日の受け入れを要求されているわけですが、医師をはじめスタッフは疲労困憊しているというのが現状です。

木下 市立病院は計画の段階から単に病床を増やすというのが目的ではなく、地域に必要な高度医療を確保するという観点から二次医療機関（※1）として設置しました。ですから、地元から支援する病院というの

小児科

副院長 土屋 史郎



現在、小児科は私を含め5人の常勤医師と1人の非常勤医師で午前中の一般外来、午後の専門外来（腎臓・神経・心臓・アレルギー・乳児健診・予防接種）、入院診療24時間365日の小児科救急を行っています。心の問題に対しては臨床心理士が心理カウンセ

診療科ご紹介

リングも行っています。何か子供の健康について困ったことがあれば、「相談ください。」とが、また当院小児科では、市民の皆様と子供に健康について知っていただくために、「子ども健康教室」を始めました。1回目は平成18年6月に「意欲ある子の育て方」2回目は平成18年12月に「子どもの急性疾患」と題して行いました。今後も続けていく予定です。で、ご参加をお待ちしております。



児科学会がインターネット上で作成した「子どもの救急」http://dojido.jpが参考になると思いますのでご利用ください。

脳神経外科 脳神経外科部長 新井 俊成

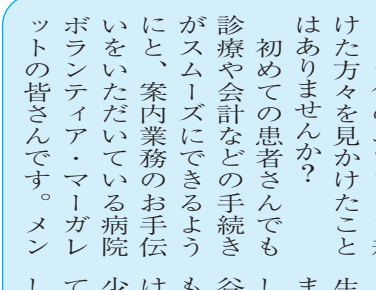


平成16年7月に草加市立病院新病棟開設に当たり、脳神経外科が新たに加わりました。私を含め3名は、地域医療の充実に向け、励んでおります。

当科の扱う疾患は、主に救急疾患としては脳血管障害、脳出血、脳梗塞、クモ膜下出血、頭部外傷が、そして慢性疾患としては脳腫瘍などがあります。脳腫瘍症例に対しては、コンピュータによるナビゲーションシステムにより、最大の腫瘍摘出と最小の術後の後遺障害で、非常に良好な成績を上げています。



しかし、一次救急病院である当院の性格上、やはり救急疾患が主で、昨年度手術の内72%が緊急手術でした。しかし手術に限らず、二次、三次救急入院治療が必要な重症患者に対しては昼夜を問わず



常に対応できるよう体制を組んでいます。手足の麻痺や意識障害が突然起こったときには、周りの人はすぐに来院させてください。



院内ボランティア・マーガレット オレンジ色のエプロンで患者さんをサポート

病院を訪れたとき、オレンジ色のエプロンを着けた方々を見かけたことはありませんか？初めの患者さんでも診療や会計などの手続きがスムーズにできるようスタッフが笑顔で接することになっています。院内業務のお手伝い、患者さんや家族の方が少いという病院に比べてボランティア・マーガレットの皆さんです。メン

バーは60歳の女性が中心で現在57人、週1回程度のペースで活動されています。主たる活動は、案内業務のほか、車椅子で来院する方のサポート、各種申込書の記入補助、再来受付機や自動支払機の取扱説明などです。このほか、小児病棟での読み聞かせ、コンサートの開催、季節の壁飾りや生花の展示なども行っています。ボランティア活動をしたいという西尾正道さん（北谷在住・69歳）は、「いつも笑顔で接することに心がけています。患者さんや家族の方が少いという病院に比べてボランティア・マーガレットの皆さんです。メン

た、ボランティア・マーガレットの皆さんです。メン

大学病院との連携

医療経験の蓄積・大学は信頼できる医師を派遣

高元 大学病院から多くの医師を派遣して頂いており、その後、大学病院と市立病院のよりよい関係をつくるために坂本病院長の考えをお聞かせください。

坂本 大学病院側からのニーズは、実際の医療現場で医師に高い医療技術の経験を積ませてもらう事です。大学病院は特定機能病院として重症患者や難病等を診ています。医師が草加市市

高元 大学病院では医師教育にどんなことを心掛けていますか。最近、医療訴訟も多いですね。坂本 そんなので、私が院

高元 病院では定期的に外来と入院の患者さんにアンケートによる満足度調査を実施していますが、ご不満の回答はほとんど外来の患者さんからです。待ち時間、言葉遣い、医師の説明や態度などですが、軽症の患者さんが大半です。一方、入院されている患者さんは、突然の下血や心臓発作から救われたという方で、お

高元 立脚している地域のなかで市立病院でなければできない診療、地域性のあるレベルの高い診療を目指すようにというアドバイスですね。坂本 そうはいっても地域の医療を考えると、それ

高元 そこで今、病院で起きている事や医療に関する情報などをお伝えするため、ホームページのリニューアルや「市立病院だより」

高元 市立病院の決算が多額の赤字だと報告されています。しかし、その内容をみていただければ、医療設備を整えて頂く必要は、負担無くしてサービスは成立します。その上で、安全な医療を提供するというのが一番重要なことではないかと

高元 最後に、高元病院長、病

すよ。坂本 それは、現在でも高い専門性と技術をもった信頼できる医師を派遣して頂いていると考えてよいと思います。派遣先の市民のニーズが何でも診てくれ、そして高度なこともやってくれれば本来の実力も発揮できず疲弊していくということですね。坂本 もちろん、その通り

高元 僕らが医者になった頃の苦情は、「痛が治らなくて残念だ。」などの治療内容についてのリクエストが多かったのですが、今はちよつとした言葉のやりとりなど人間関係のトラブルで、患者さん自身がピリピリしていて、昔のようなお互いに信頼できる人間関係が作れないのは残念なことです。坂本 その通りですね。



坂本 東京もそうですが一般に若い人は大病院にリランド志向というものが、病院は高度先端医療などを提供しているのですが、病院の事情を知らない結構無責任な投書はこちらにも沢山あります。高元 苦情がきたら真摯に受け止めるべきですが、病院の本来的役割や医療現場の実情まで市民の皆さんに理解していただくのは難しいところですね。坂本 確かに、自分自身でかんでも患者さんの希望を無限に受け入れていくということには限界があります。また、そうなること本来の病院

市立病院の今後は広域での医療分担と特色ある病院づくり

市立病院は今後、どのような方向に進んだらいいと思いますか。坂本 草加市に限らず、これからは広域で医療分担するというのが必要です。診療科が揃っていても何でも引き受けますというのではなく特色をもった病院づくり、そして、それらの病院間の連携が望まれるでしょう。

高元 立脚している地域のなかで市立病院でなければできない診療、地域性のあるレベルの高い診療を目指すようにというアドバイスですね。坂本 そうはいっても地域の医療を考えると、それ

高元 最後に、高元病院長、病

院事業管理者として病院運営についての抱負をお聞かせください。高元 病院のよりよい運営には超えなければならぬハードルが沢山あります。でも一番大切なのは我々職員が病院の発展のために頑張ろうと気持ちを一つにして進むことかもしれません。病院が発展していけばそれは同時に病院の健全経営につながります。市民の方々に喜んで頂けるような核的レベルを維持できる病院を数年以内に造れるよう精一杯邁進するつもりです。市民の皆さん、市長さん、また坂本病院長に今後変わらぬご支援をお願い致します。

一長時間にわたり、大変貴重なご意見ありがとうございました。

坂本 現在のめざましい発展とけた日本の医療技術を支えているのは大学病院の医師だけでなく、地域の基幹病院の勤務医といえるでしょう。大学側は医師の実地修練を目的として多くの関連病院をもっているわけですが、勤務医の中には

「市長へのEメールから」私達の税金で、立派な病院を建てて頂いたのは有り難いのですが、気軽に利用できないなんて、意味ないですね（かかりつけ医からの紹介状が必要だから）。文化会館とか図書館は気軽に利用できるのに、なんでも一番身近で一番大切な健康を維持できる病院がこんななのかって思うと、ガッカリです。」

高元 僕らが医者になった頃の苦情は、「痛が治らなくて残念だ。」などの治療内容についてのリクエストが多かったのですが、今はちよつとした言葉のやりとりなど人間関係のトラブルで、患者さん自身がピリピリしていて、昔のようなお互いに信頼できる人間関係が作れないのは残念なことです。坂本 その通りですね。

高元 僕らが医者になった頃の苦情は、「痛が治らなくて残念だ。」などの治療内容についてのリクエストが多かったのですが、今はちよつとした言葉のやりとりなど人間関係のトラブルで、患者さん自身がピリピリしていて、昔のようなお互いに信頼できる人間関係が作れないのは残念なことです。坂本 その通りですね。

高元 僕らが医者になった頃の苦情は、「痛が治らなくて残念だ。」などの治療内容についてのリクエストが多かったのですが、今はちよつとした言葉のやりとりなど人間関係のトラブルで、患者さん自身がピリピリしていて、昔のようなお互いに信頼できる人間関係が作れないのは残念なことです。坂本 その通りですね。

高元 僕らが医者になった頃の苦情は、「痛が治らなくて残念だ。」などの治療内容についてのリクエストが多かったのですが、今はちよつとした言葉のやりとりなど人間関係のトラブルで、患者さん自身がピリピリしていて、昔のようなお互いに信頼できる人間関係が作れないのは残念なことです。坂本 その通りですね。

高元 僕らが医者になった頃の苦情は、「痛が治らなくて残念だ。」などの治療内容についてのリクエストが多かったのですが、今はちよつとした言葉のやりとりなど人間関係のトラブルで、患者さん自身がピリピリしていて、昔のようなお互いに信頼できる人間関係が作れないのは残念なことです。坂本 その通りですね。

高元 僕らが医者になった頃の苦情は、「痛が治らなくて残念だ。」などの治療内容についてのリクエストが多かったのですが、今はちよつとした言葉のやりとりなど人間関係のトラブルで、患者さん自身がピリピリしていて、昔のようなお互いに信頼できる人間関係が作れないのは残念なことです。坂本 その通りですね。

高元 僕らが医者になった頃の苦情は、「痛が治らなくて残念だ。」などの治療内容についてのリクエストが多かったのですが、今はちよつとした言葉のやりとりなど人間関係のトラブルで、患者さん自身がピリピリしていて、昔のようなお互いに信頼できる人間関係が作れないのは残念なことです。坂本 その通りですね。

高元 僕らが医者になった頃の苦情は、「痛が治らなくて残念だ。」などの治療内容についてのリクエストが多かったのですが、今はちよつとした言葉のやりとりなど人間関係のトラブルで、患者さん自身がピリピリしていて、昔のようなお互いに信頼できる人間関係が作れないのは残念なことです。坂本 その通りですね。

からするとう一杯一杯の運営といえるでしょう。結局、この低い数字には産婦人科病棟の閉鎖など稼働していない診療科の影響が反映されています。坂本 そうですか。木下 新築移転に伴って、脳外科、泌尿器科など新診療科の開設を見越してベッドの増床などを行ったのですが、スタッフの確保や体制整備が十分なものでできなかったという反省もあります。

高元 我々の時代の医師には医師になるというモチベーションがありません。医師になって難しい病気の患者を救つたという喜びは大きかったという喜びの適性より優秀生の集団として存在しているのかもしれないですね。

高元 病院では定期的に外来と入院の患者さんにアンケートによる満足度調査を実施していますが、ご不満の回答はほとんど外来の患者さんからです。待ち時間、言葉遣い、医師の説明や態度などですが、軽症の患者さんが大半です。一方、入院されている患者さんは、突然の下血や心臓発作から救われたという方で、お

高元 僕らが医者になった頃の苦情は、「痛が治らなくて残念だ。」などの治療内容についてのリクエストが多かったのですが、今はちよつとした言葉のやりとりなど人間関係のトラブルで、患者さん自身がピリピリしていて、昔のようなお互いに信頼できる人間関係が作れないのは残念なことです。坂本 その通りですね。

高元 僕らが医者になった頃の苦情は、「痛が治らなくて残念だ。」などの治療内容についてのリクエストが多かったのですが、今はちよつとした言葉のやりとりなど人間関係のトラブルで、患者さん自身がピリピリしていて、昔のようなお互いに信頼できる人間関係が作れないのは残念なことです。坂本 その通りですね。

高元 僕らが医者になった頃の苦情は、「痛が治らなくて残念だ。」などの治療内容についてのリクエストが多かったのですが、今はちよつとした言葉のやりとりなど人間関係のトラブルで、患者さん自身がピリピリしていて、昔のようなお互いに信頼できる人間関係が作れないのは残念なことです。坂本 その通りですね。

高元 僕らが医者になった頃の苦情は、「痛が治らなくて残念だ。」などの治療内容についてのリクエストが多かったのですが、今はちよつとした言葉のやりとりなど人間関係のトラブルで、患者さん自身がピリピリしていて、昔のようなお互いに信頼できる人間関係が作れないのは残念なことです。坂本 その通りですね。

高元 僕らが医者になった頃の苦情は、「痛が治らなくて残念だ。」などの治療内容についてのリクエストが多かったのですが、今はちよつとした言葉のやりとりなど人間関係のトラブルで、患者さん自身がピリピリしていて、昔のようなお互いに信頼できる人間関係が作れないのは残念なことです。坂本 その通りですね。

高元 僕らが医者になった頃の苦情は、「痛が治らなくて残念だ。」などの治療内容についてのリクエストが多かったのですが、今はちよつとした言葉のやりとりなど人間関係のトラブルで、患者さん自身がピリピリしていて、昔のようなお互いに信頼できる人間関係が作れないのは残念なことです。坂本 その通りですね。

高元 僕らが医者になった頃の苦情は、「痛が治らなくて残念だ。」などの治療内容についてのリクエストが多かったのですが、今はちよつとした言葉のやりとりなど人間関係のトラブルで、患者さん自身がピリピリしていて、昔のようなお互いに信頼できる人間関係が作れないのは残念なことです。坂本 その通りですね。

市民の期待する病院は

（※1）二次医療機関：4面記事参照

気軽に利用できる病院 病院理解にギャップ

市民の皆さんは、市立病院に何を期待していると思いますか。木下 私に最近届いたEメールは市民の方が望んでいる一つの典型的なご意見かもしれませんのでご紹介しましょう。

高元 病院では定期的に外来と入院の患者さんにアンケートによる満足度調査を実施していますが、ご不満の回答はほとんど外来の患者さんからです。待ち時間、言葉遣い、医師の説明や態度などですが、軽症の患者さんが大半です。一方、入院されている患者さんは、突然の下血や心臓発作から救われたという方で、お

高元 僕らが医者になった頃の苦情は、「痛が治らなくて残念だ。」などの治療内容についてのリクエストが多かったのですが、今はちよつとした言葉のやりとりなど人間関係のトラブルで、患者さん自身がピリピリしていて、昔のようなお互いに信頼できる人間関係が作れないのは残念なことです。坂本 その通りですね。

高元 僕らが医者になった頃の苦情は、「痛が治らなくて残念だ。」などの治療内容についてのリクエストが多かったのですが、今はちよつとした言葉のやりとりなど人間関係のトラブルで、患者さん自身がピリピリしていて、昔のようなお互いに信頼できる人間関係が作れないのは残念なことです。坂本 その通りですね。

高元 僕らが医者になった頃の苦情は、「痛が治らなくて残念だ。」などの治療内容についてのリクエストが多かったのですが、今はちよつとした言葉のやりとりなど人間関係のトラブルで、患者さん自身がピリピリしていて、昔のようなお互いに信頼できる人間関係が作れないのは残念なことです。坂本 その通りですね。

高元 僕らが医者になった頃の苦情は、「痛が治らなくて残念だ。」などの治療内容についてのリクエストが多かったのですが、今はちよつとした言葉のやりとりなど人間関係のトラブルで、患者さん自身がピリピリしていて、昔のようなお互いに信頼できる人間関係が作れないのは残念なことです。坂本 その通りですね。

高元 僕らが医者になった頃の苦情は、「痛が治らなくて残念だ。」などの治療内容についてのリクエストが多かったのですが、今はちよつとした言葉のやりとりなど人間関係のトラブルで、患者さん自身がピリピリしていて、昔のようなお互いに信頼できる人間関係が作れないのは残念なことです。坂本 その通りですね。

高元 僕らが医者になった頃の苦情は、「痛が治らなくて残念だ。」などの治療内容についてのリクエストが多かったのですが、今はちよつとした言葉のやりとりなど人間関係のトラブルで、患者さん自身がピリピリしていて、昔のようなお互いに信頼できる人間関係が作れないのは残念なことです。坂本 その通りですね。

地域医療連携で市民の皆さんのいのちと健康をお守りします



医療分業でお薬を安全に

草加市薬剤師会会長 杉山 義夫



医療連携で歯科保健の向上を目指します

草加市薬剤師会会長 藤波 齊



草加市立病院と地域医療連携

草加八潮医師会長 内山 泰宏

平成13年からの医療分業に伴い、よりよい地域医療環境を整備するために、薬剤師会と市立病院は協力し連携を進めてまいりました。各薬局では医師の処方箋をもとに調剤し、患者さんの体質や、以前処方された薬の内容などの記録（薬歴）を保管するので、薬の飲み合わせな

草加市薬剤師会会長 杉山 義夫

草加市薬剤師会会長 藤波 齊

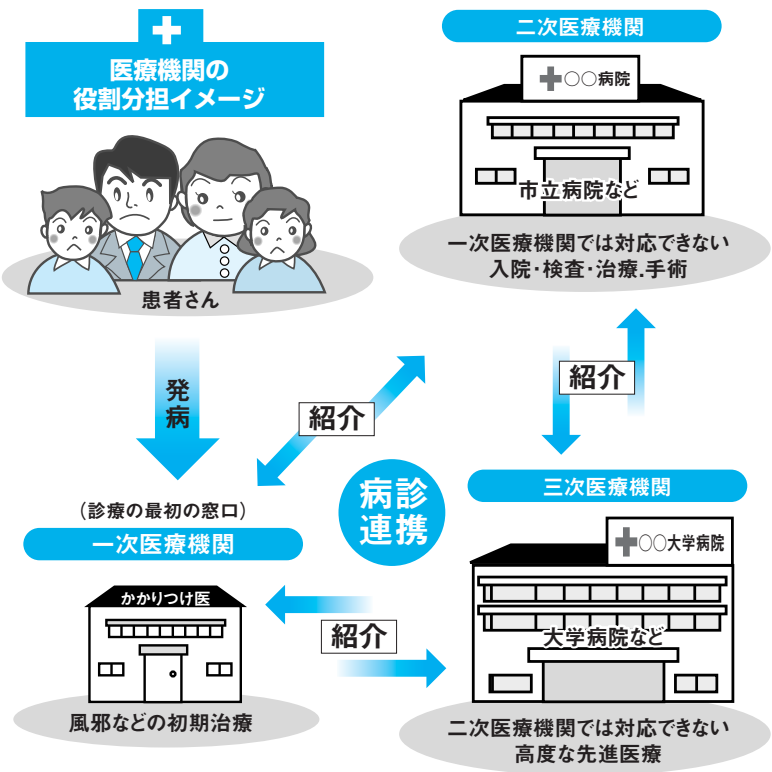
草加市薬剤師会会長 内山 泰宏

草加市立病院のご案内

代表電話 946-2200
人間ドック予約 946-2218

市立病院は急性期医療を中心とした二次医療機関です

医療機関は、規模や特性により一次から三次までの3段階に分かれています。
風邪などの初期治療は地域の開業医などの一次医療機関で、入院やより専門的な治療・検査が必要な場合は市立病院などの二次医療機関で、そして高度で先進的な医療の提供が必要な場合は大学病院などの三次医療機関でというように、役割分担がされています。
二次医療を提供している市立病院は、緊急もしくは重症の患者さんを中心に、入院・検査・手術などの医療を24時間体制で行う急性期病院（※2）としての役割を担っています。
（※2）急性期病院：発症間もない患者さんに対して、一定期間の集中的な医療を提供する病床を持つ病院

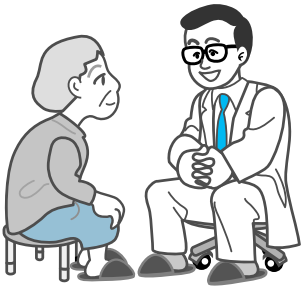


市立病院は地域医療連携を大切にする病院です

市立病院は、地域の医療機関との連携を大切にし、待ち時間を短くし検査や治療などを効果的に行うため、原則、紹介制としております。
地域医療連携室では、ご紹介いただいた患者さんの診察がスムーズにできるよう、地域の医療機関と事前予約等の事務手続きや、治療・検査を終えた患者さんが紹介元の医療機関に戻る（逆紹介）ためのお手伝いをしています。

医療スタッフのご案内（平成19年2月1日現在）

- ◎ 病院事業管理者（兼）病院長 高元俊彦（循環器科）
副院長（兼）医療技術部長 土屋史郎（小児科）
- 診療科目（常勤・非常勤医師名）
- | | |
|------------|-------------------------------------|
| 内科 | 小澤直子、平石喜一郎、赤座至 |
| 呼吸器科 | 新謙一、鵜浦康司、梅本由起子 |
| 循環器科 | 土信田伸夫、古林正比古、大野篤行 |
| 消化器科 | 矢内常人、北村均、金澤信彦、吉岡早苗、佐野智彦 |
| 小児科 | 長谷川毅、寺内真理子、吉田香代子、松本暁子、高橋晶子 |
| 外科 | 西村久嗣、西岡良薫、小野千尋、星野直明、倉持純一、アディクリスナ・ラマ |
| 整形外科 | 栗原良暁、青山広道、松山嘉彦 |
| 脳神経外科 | 新井俊成、宍戸恒郎、木野智幸 |
| 皮膚科 | 今井健、小森一哉、盛山恵理 |
| 泌尿器科 | 鎌田成芳、岡田洋平 |
| 婦人科 | 立花義史、大久保大孝 |
| 眼科 | 秋山隆志、江里口敦子 |
| 耳鼻咽喉科 | 金沢弘美、川島真理子 |
| リハビリテーション科 | 浜崎義雄 |
| 放射線科 | 中川恒明 |
| 歯科口腔外科 | 飯野光喜、石川博之、庄村江里子 |
| 精神科 | 水野和子 |
| 麻酔科 | 松澤吉保、石橋桜子 |
- ※ この他、各分野で研修医8名が診療や検査に携わっています。



外来診療のご案内

- 診療日 月曜日～金曜日、第1・第3土曜日（祝休日を除く）
□ 受付時間 午前8時～午前11時（診療は午前9時～）
※ 診療は予約制です。直接来院された患者さんは、予約の患者さんを優先するため、長時間お待ちいただくことがあります。しかし、苦しい時などはいつでも受付にお申し出ください。
◎ 保険証提示のお願い
保険証は月1度窓口にご提示ください。また、内容に変更があった場合は、速やかに窓口にお知らせください。

初めての方は総合案内へ

どの診療科を受診したら良いのかわからないときには、看護師がおりますのでご相談ください。

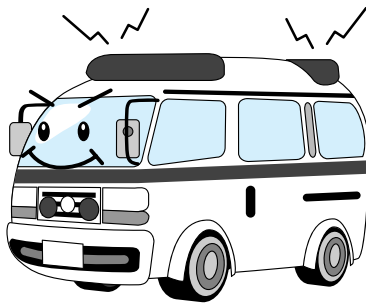


救急外来のご案内（24時間受付）

二次救急病院として、入院治療や手術等を必要とする重症の患者さんに対して、小児科、内科、外科（整形外科・脳外科を含む）の医師が対応しています。休日、夜間等に受診される場合は、事前に電話（☎946・2200）で確認のうえ、時間外受付までお越しください。

お願い

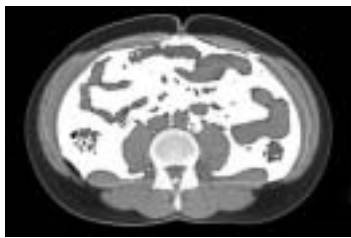
救急外来は時間外診療を行う部門ではありません。救急の患者さんへの診療が主任務ですので、医師が救急医療に専念できるよう適切にご利用ください。
日頃から「かかりつけ医」を持ち、健康管理に十分注意を払ってください。



4月から人間ドックが充実

内臓脂肪検査・肺ガン検査等も実施

人間ドックの専属医師が4月に着任し、あなたの健康を細かくチェック。今、話題のメタボリックシンドロームの診断基準である内臓脂肪を正確に測定する内臓脂肪測定CT検査、肺ガン検査（肺CT検査、腫瘍マーカー・シフラ）等も加わり検査内容も充実します。



（写真の白いところが内臓脂肪）



（胸部CT写真）

人間ドックの予約は、健康管理科へ。☎946・2218

産婦人科の状況について

産科の再開に全力で取り組んでいます

産婦人科は、現在産科（分娩）を一時休止しており、市民の皆様には、たいへんご不便やご心配をお掛けしております。
産婦人科の問題は、過酷な勤務状況等により産婦人科を志す医師が年々減少し、当院に限らず全国各地の病院で産婦人科の廃止が相次いでいます。
このような緊急事態に対し、当院では東京医科歯科大学をはじめ、東京および関東近隣の医科大学や県の機関、草加八潮医師会等に協力要請を行うとともに、インターネットや人材紹介会社等を活用して医師の確保に努力してきました。
その結果、2名の医師を確保し昨年9月から婦人科の外来診療を再開するとともに、一部手術を行えるようになりました。しかし、安心してご出産いただくには未だ不十分な医療体制というのが実情です。
引き続き、あらゆる手段を講じて医師の確保を図り、一日でも早く産科が再開できるよう全力で取り組んでまいります。

